

イエスを信じて教会に通っているのに、目に見える結果や変化がないと思う人がいます。それは、福音を自分のレベルで評価しているからです。目の前にある結果に左右されるのではなく、勝利の道を歩むためには、福音をどのように理解すべきなのでしょう。

1. 福音の始まりはみすばらしく見える。

1) イエス様の誕生

救い主キリストであるのに、馬小屋で誕生したので、大したことはないと思いがちです。

2) 世の勝ち組の反対と軽視

お金や知識がある人を世の中は成功者と言いますが、そのような人々が握って走って来た世の理論、法則、価値観とイエス様の話は、まったくかみ合いません。それゆえ、人々はイエス様を軽視し、反対します。

3) ブームのように映る

大勢の群衆が集まりましたが、自分たちの願いや欲と合わないの、離れて行きました。それを見て、福音は大したものではないと考えます。

4) 負け組の集いのように

イエス様のもとに残った人々は、世の中で言うと負け組ばかりでした。貧しい者、病人、失敗者、社会から疎外された者、指をさされるような者ばかりだったので、パリサイ人から見たら罪人といっしょにいると批判する対象でした。初代教会の120人は、70%以上が女性で、その当時、女性は人を数えるときに入れられないほどの存在でした。また、男性も、漁師や売国者と呼ばれるような下っ端ばかりでした。それが福音なのかと誤解するのですが、パウロは「神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。」(1コリント 1:20) と言い、それゆえ、神様は世の中で

価値がないと思われる人を集められたと言っています。からし種は、肉眼では見えないような小さな種ですが、そのようにスタートすると言われているのです。世の中の偉い人々は、踏みつぶしても良いし、踏みつぶせると思っていました。そのように、福音の始まりは大したものではないように見えるのです。

2. 福音はいのちなので、必ずいのちの実を結ぶ。

イエス様は「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」と言われ「わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」(ヨハネ 10:10) と言われました。福音はいのちを受けることです。いのちを受けた者の始まりは大したことはありませんが、神の神殿に変わります。いのちの御霊の原理によって(ローマ 8:2) と言われているのは、聖霊が内におられるということで、今日の聖書箇所であるように、良い地にまかれた種は、30倍、60倍、100倍の実を結びます。いのちゆえに、いのちの実を結ぶのです。どのように実を結ぶのでしょうか。

1) 福音を受けた人の内側の変化

信じる者の内側から変化します。

①過去からの完全なる自由

いままでの失敗、恨み、傷が、すべて感謝になり、勝利の土台になります。

②神の国を味わう現実の勝利

そして、今日の現実に神様の主権を認め、現実と格闘することなく、超越します。神の国を味わい、みことばを求め、みことばから答えを受けます。いのちがあるので、内側が変えられ、弱さに捕らわれることなく、聖霊の力の導き、働きによって、超越する勝利の

力が与えられます。

2) 他人を生かす人への変化

自分や問題、状況、環境のせいにしてたり、落胆することなく、神様から与えられたいのちに集中しましょう。そうすれば、内側にいのちの実が結ぶようになって、他の人にもつながります。生かす証人として変えられるのです。

①32節

「それが蒔かれると、生長してどんな野菜よりも大きくなり、大きな枝を張り、その陰に空の鳥が巣を作れるほどになります。」

②名前の変化

名前が変わり、人々を生かす価値がある存在になります。アブラムがアブラハム、ヤコブがイスラエル、シモンはペテロ(岩の上に教会が建てられます)、サウロがパウロに変わりました。私たちの名前は「世界の光」(マタイ 5:14) であり、「ぶどうの木」(ヨハネ 15:5) 「御子のかたち=イエスのかたち」(ローマ 8:29) だと言われます。土の器の私たちの内にキリストのいのち、宝のキリストがおられます。「神の神殿」(1コリント 3:16) です。神殿とはいのちの水があふれ出るところです。「キリストの使節」(2コリント 5:20) として、キリストの代わりという名前になっています。「キリストのからだなる教会」(エペソ 1:23) と言われているように、頭がキリストであり、神様が

すべてのからだを通して実行して現れるのです。「王である祭司。預言者の役割をする」(1ペテロ 2:9) と言われているように、神様のみわざが私たちを通して現れます。

3. 福音は真理の光なので、隠れているのが明らかにされる。

1) ヨハネ 8:44

心の傷にとらわれて、憎しみ、恨み、だれか、なにかのせいにしてはいますが、それは事実でも、裏に「偽りの父、悪魔」がいます。その真相が明らかになると、自由になります。

2) エペソ 2:2

偶像崇拜、進化論などの世の流れには、裏に空中の権威を持つ支配者、悪魔がいます。

3) 11コリント 11:13-14

教会と言いつつも、福音を邪魔する教会があります。裏に変装して操っている悪魔の働きがあります。

福音は真理の光なので、なにが善で悪なのか、真理はなにで偽りはなにか、救いとはなにに滅びとはなにか、天国と地獄はなにか、幸せと不幸はなにかあきらかにします。福音を知る前の考えや価値観を捨て、地上のものに執着せず、天のものによって歩みましょう。いのちに集中しましょう。ローマ 1:16 を自分の告白にしましょう。いのちの力が働くように祈り、使徒 1:7-8、14 の信者になりましょう。

1部-マルコ 4:10-20 実るいのち

なるほど/ 福音はいのちなので、必ず信者の内外で実を結び、福音は光なので、必ず隠されたまじごとを明らかにする。

ならば/

目の前の結果に左右されず、福音を誇りに思い、いのちに集中して、実りを待つ祈りの人になる。

2部: エペソ 2: 1-7 やぐらを建てる信者

なるほど/ 信者の存在価値がわかれば、やぐらの祝福に目が開かれ、やぐらの内容と方法がわかれば、信者の内外にやぐらがセッティングされる。

ならば/ 私の過去と今日と未来を、やぐらを通して見る新しい目を持つ。